Vol.35 2020年12月

TABLE FOR TWO

テーブルの向こう側から

これまで給食
78,638,102食分の
ご寄付が集まりました！

（写真：学校で給食を食べていた頃）

フィリピン カステリヤホス

遠隔授業で学ぶ生徒に食材パックを配布

フィリピンでは10月に学校が再開しましたが、教室での対面授業ではなく、オンライン授業と教材を使った自己学習による遠隔教育が採用されています。

休校前はバライバイ小学校で、栄養失調と診断された生徒を対象に給食を提供していました。しかし新型コロナウイルス感染症による経済状態の悪化の影響を多くの家族が受けていることから、全生徒を対象に給食の食材を詰めたパックの配布を実施しています。保護者が仕事を失った家庭や、国内の移動制限のため父親が帰郷できない家庭もあり、生徒と家族は様々な課題に直面しています。

※ 2020年10月時点の情報に基づいて作成しています。

フィリピン
カステリヤホス

日本
愛知
東京

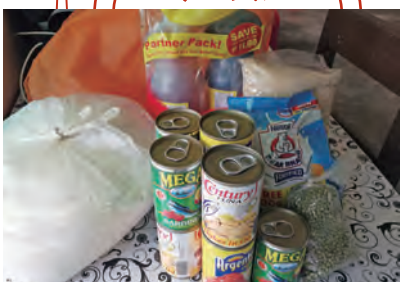
世界を繋ぐ ひとつのテーブル

わたしの一食が、
あの子の一食になる。

TABLE FOR TWO は開発途上国の飢餓と先進国の肥満や
生活習慣病の解消に同時に取り組む、日本発の社会貢献運動です。

©TABLE FOR TWO International

あの子のテーブル



米や豆、コーンビーフやツナ缶、粉ミルクなどに加えて、醤油、酢や砂糖などの調味料を詰めた食材パックを配布しています。炭水化物、たんぱく質が豊富で、日々の食事に欠かせない食材を選びました。

自己学習の教材と食材パックの配布を担当した先生は、「いつもは遅れてくる保護者が今日は時間通りに来校したのには驚きました。パックを受け取ったときの満足そうな様子や安堵している顔を見て、こちらも嬉しくなりました。食材パックは児童と家庭にとって大きな支援になっています。」と話しています。

わたしのテーブル

春日井製菓では、毎年社員食堂でおにぎりを提供し、写真投稿で「おにぎりアクション」に参加しています。取り組みの趣旨を説明すると多くの社員が賛同し、プロップスと共に楽しく参加しました。今年は食堂だけではなく家庭での写真も投稿してもらうように協力をお願いし、全部で167枚の写真が集まりました。

日本水産八王子総合工場では、10月16日の世界食料デーに合わせ、ウガンダで給食として食されている「ポショ」をTFTメニューとして小鉢で提供し、支援先の子どもたちが食事をしている様子に思いを馳せました。マッシュポテトの上に、トマトソースで煮込んだ豆をトッピングした内容にアレンジし、社員からもとても好評でした。

食材パックの提供を、全校生徒に始めました

TFT が給食支援をしているフィリピン、ルソン島西部のカステリヤホスのバライバイ地区は、ピナツボ火山噴火の影響で家を失った家族が再定住した地域です。失業率が高く貧困家庭の多いところです。

新型コロナウイルス感染症以前は、バライバイ小学校の栄養失調の児童に対して給食を提供していました。コロナウイルスの影響で学校が休校になり給食の提供ができなくなったこと、失業した保護者や収入が減った家庭も多いことから、726 名の全校生徒のうち希望する家庭に食材パックの提供を始めました。

オンライン授業を受けられる生徒は全体の約 4 割

フィリピンでは 10 月に 4 か月遅れで新学年が始まり、学校が再開しました。感染予防のため対面授業が禁止されており、オンラインでの授業とモジュラーと呼ばれる家庭学習用教材を使った授業が実施されています。オンライン授業をうけるには、コンピューターやインターネット環境が必要ですが、経済的な理由でオンライン授業を受けられない生徒が多く、フィリピン全土で約 6 割の生徒がオンライン授業を受けられる環境にないと言われています。

オンライン授業を受けられない生徒は教材を利用して自己学習をします。保護者は毎週金曜日に学校に行き、モジュラー教材を受け取ります。翌週の金曜日に宿題を提出し、次週の教材を受け取ります。モジュラー教材とあわせて、米や豆、コンビーフやツナ缶、調味料の入った食材パックを配布しています。あるお母さんは「一家の稼ぎ頭である夫が失業し、収入が途絶えてしまいました。食材パックの提供は大変助かります」と話してくれました。

自主学習はみんなにとってチャレンジ

モジュラー教材による自主学習は、先生にとっても、生徒や家族にとっても初めての経験です。先生が生徒に直接指導できないので、保護者が先生の代わりに、授業内容を教えなければなりません。子供が分からないところがあると、学校では先生に質問できますが、自主学習では保護者が答えないといけないので、負担も大きくなります。先生側の立場からは、生徒が教材の内容をきちんと理解しているのか把握できず、生徒の学習状況が分かりにくいという課題があります。
バライバイ小学校では、メッセージアプリやソーシャルメディアを利用して、先生が各生徒の様子をモニターし、保護者や生徒からの質問があれば、遠隔で答えられる仕組みづくりが進んでいます。

教材配布の準備をする先生

検温や距離を保つなど、
学校でも感染症防止対策が実施されています

フィリピンの感染症対策

感染者数が最も多かった 8 月には、1 日の新規感染者数が 6,000 人を超えることもありました。
その頃と比べて新規感染数は減少傾向にありますが、予断を許さない状況が続いています。

感染者数が最も多い首都マニラ圏などでは、厳しいコミュニティ隔離措置が講じられています。バライバイ小学校のあるカステリヤホス地域は、感染者数がそれほど多くないことから、隔離措置は比較的緩やかです。それでも、若者（21 歳以下）や 60 歳以上の人は自宅にとどまらなければならず、子ども達は気軽に友達と遊ぶことができません。また、公共交通を利用するにはマスクのみならず、フェイスシールドの着用も義務付けられています。

コロナ禍の子どもを「失われた世代」にしないために

11 月 20 日の「世界こどもの日」にあわせ、ユニセフ（国連児童基金）が新型コロナウイルス感染症の拡大が子ども達に与えている影響についての報告書を発表しました。子どもはコロナウイルスに感染しにくいと思われがちですが、87 カ国の感染者の 9 人に 1 人が 20 歳未満の子どもや青少年であり、報告された感染者の 11 パーセントを占めています。

長引く休校は子どもの教育に大きな影響を与えています。コロナ禍で保健・社会サービスが中断したために、予防接種や小児感染症の外来ケアが受けられない子どもも増えています。
2020年10月の時点で、世界 135か国で 2 億 6,500万人の子どもが、休校のため学校給食の機会を逃しています。栄養価のある給食が唯一の食事である貧困層の子どもの栄養不良が増えることが心配されています。

校庭で課題を受け取る子どもたち

TFT はこれからも、先進国で健康的な食生活を推奨しつつ、開発途上国の子どもたちに 1 食でも多くの学校給食を届けることを通じて、世界の食の不均衡の解消に努めて参ります。